【滋賀県】「校内キャリアサポートセンター」を核とした地域密着型包括的キャリア教育拠点形成

滋賀県立大津清陵高等学校
（単位制・定時制/普通科）
（単位制・通信制/普通科）

アド	理数	多様
		○

人材育成の現状・課題

○ 文部科学省「令和７年度学校基本調査」によると、全国の定時制課程の在籍者は73,495人で全高等学校生徒数の2.56％を占め、前年から1,148人増加している。通信制課程の在籍者は、前年より15,110人増加の305,197人で全高等学校生徒数の9.60％を占め、高校生の約１割が通信制高校を選んでいることから、2040年には多様な学びのニーズは拡大するものと見込まれる。
○ 本県の令和８年度入学者選抜における定時制高等学校の定員充足率は57.1％、通信制高等学校の定員充足率は67.5%であるが、定時制・通信制高等学校に学ぶ生徒は多様な背景があり、それぞれの生徒に合った学びと卒業後の進路が保障できるよう、通信制課程のキャリア教育の充実やサテライト校の設置といった多様な選択肢の提供に取り組む必要がある。
○ 定時制昼間部の卒業生の進路未決定率が20.1%、通信制では48.7％と高く、生徒の主体的な進路選択や社会への安定的移行、自己のキャリア形成を支える伴走支援が十分に機能していない現状が明らかである。

具体の事業内容

【拠点における主な改革目標】
　○ 進路決定率の向上（R7：定時制80.0%、通信制51.3% → R13：定時制90%、通信制80%）
　○ キャリア教育に対する満足度の増加（R7： ― → R13： 80%）
　○ 日本語指導に対する満足度の増加　（R7： ― → R13： 80%）
【取組内容・創出するパイロットケース】
（教育改革の内容）
　○ 校内キャリアサポートセンターの設置による支援体制の強化
　○ 実践的キャリア教育に向けたカリキュラム編成
　○ 日本語教育プログラムの充実
　○ サテライト校の設置
（施設・設備の整備）
　○ 協働学習・探究活動を行えるようグループワークやプレゼンテーション、外部機関とのオンライン交流など多様な学びのための施設として、「清陵アクティブルーム（仮）」の整備
　○ 授業動画や教材コンテンツの制作・配信を行う、「コンテンツ配信センター（仮）」の整備
【他校への普及方策】
　○ 本校教員を講師とする教員研修会の実施
　○ 日本語学習支援教材と教育プログラムの共有
【高校と地域の連携・協働による学力向上・学習支援他のための取組】
　○ 清陵日本語サロン
　○ 地域協働学習

実施体制	
協力校	堅田高等学校、北大津高等学校、伊香高等学校、守山北高等学校、栗東高等学校、信楽高等学校、野洲高等学校、石部高等学校、安曇川高等学校、伊吹高等学校、日野高等学校、愛知高等学校、大津清陵高等学校馬場分校（夜間定時制）、瀬田工業高等学校（夜間定時制）、彦根工業高等学校（夜間定時制）、長浜北星高等学校（全日制・夜間定時制）、能登川高等学校（昼間・夜間定時制）、長浜北星高等養護学校
主な連携機関　等	地域の教育関係事業者、滋賀大学、滋賀県地域日本語教育推進センター、福祉関係機関・事業者　等

この学校では、こんな学びが始まる

一人ひとりの可能性をひらく 社会的自立につながる学び

多様な学習ニーズに対応した教育機会の確保

滋賀県立大津清陵（おおつせいりょう）高等学校

定時制・通信制／普通科

この改革が必要な背景

- 滋賀県では、**不登校**を経験した生徒や**日本語指導**が必要な生徒への支援ニーズが高まる中、**通信制高校を選択する生徒も一定数**存在
- 通信制課程の**進路未決定率は約５割**にのぼることから、**社会的自立につながるキャリア教育の充実**が急務

事業概要（学びの変化）

校内キャリアサポートセンターが伴走する

- ✓ **県立学校初の「校内キャリアサポートセンター」を設置**する
- ✓ **キャリアコンサルタント**、**スクールカウンセラー**、**スクールソーシャルワーカー**、**日本語指導支援員**、**ICT支援員**が**チームで支援**する
- ✓ 入学から卒業後まで、一人ひとりに寄り添った伴走支援を行う
- ✓ **卒業後も福祉・就労支援機関と連携**し、社会的自立につなげる



日本語教育と多文化共生を支える

- ✓ **学校設定科目「日本語」**を核とした日本語教育プログラムを実施する
- ✓ **滋賀大学や滋賀県地域日本語教育推進センターと連携**し、**進学や就職につながる日本語力**を育成する
- ✓ 放課後の「清陵日本語サロン」で、日本語学習や進路相談を行う

キャリア教育で未来を描く

- ✓ **学校設定科目「キャリアガイダンス」**や**総合的な探究の時間を活用**し、自分の強みや適性を理解する
- ✓ **地域企業、大学や福祉施設等と連携**し、職業講話や企業訪問、大学講座、短期インターンシップ等に取り組む
- ✓ **キャリアコンサルタントや教員の伴走**により、自分らしい進路や将来像を具体的に描く
- ✓ **就職・進学の双方に対応した支援**により、**主体的な進路選択**につなげる

どこに住んでいても学べる環境をつくる

- ✓ 地理的に通学が困難な生徒も学び続けられるよう、**長浜北星高校内**に**学習・相談ができる拠点を整備**する
- ✓ オンデマンド教材を活用し、自分のペースで学習を進める
- ✓ **キャリアサポート室において、キャリアコンサルタントやスクールカウンセラー等の支援**を受けることができる



＜生徒の１日の流れ（例）※通信制課程１年Aさん（湖北地域在住）＞



【14:00】
「現代の国語」において、教員による対面指導を受けながら、文章の読解や表現活動に取り組む

【放課後】
キャリアサポート室のスタッフと面談し、進学や就職に向けた相談を行う

【13:00】
自宅近くの学習拠点で、「数学Ⅰ」において、教員による対面指導を受けながら学習を進める



【15:00】
本校で実施されている「キャリアガイダンス」をオンラインでライブ視聴



高校生の未来の姿（指標の例）

卒業時の進路決定率

	(現状)		(R10)		(R13)
（定時制）	80%	⇒	85%	⇒	90%
（通信制）	51%	⇒	65%	⇒	80%



他校への普及方策

キャリア教育プログラムや校内キャリアサポートセンターの実践を県内高校へ展開する　等

主な連携機関

滋賀大学、滋賀県地域日本語教育推進センター、福祉関係機関・事業者、地域企業　等

（出典）都道府県の提出書類及び生成AIにより作成した画像をもとに文部科学省において作成